

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校種間の接続・一貫性を追求した実践事例
-------	----------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

三重県鈴鹿市

○学校名

鈴鹿市立千代崎中学校

○学校のURL

<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/chiyo-j/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】18学級、【特別支援学級】2学級、【合計】20学級

○児童生徒数

【全生徒数】585人（平成26年4月1日現在）

（内訳：第1学年186人 第2学年194人 第3学年205人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成25年度人権教育研究推進事業人権教育総合推進地域推進協力校

平成26年度人権教育研究推進事業人権教育総合推進地域推進協力校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

笑顔とこころの通い合う学校—生徒、先生、保護者、地域が心をひとつにして—

【人権教育に関する目標・めざす生徒像】

- ・自分の良さに気づき、さらに自分を高めようとする生徒
- ・一人一人の違いを認め、尊重し合える生徒
- ・差別を見抜き、差別を許さず、差別をなくすために行動できる生徒

○人権教育に係る取組一口メモ

人権教育を通じて育てたい資質・能力の3側面を踏まえ、幼小中連携を大切にしていた中学校における人権教育の実践

○人権教育にかかる取組の全体概要

家庭的背景に課題のある生徒や障がいのある生徒、外国につながる生徒など、教育的に不利な環境のもとにある生徒が多数在籍している。その生徒たちに対する差別的な言動が皆無でないという実態を踏まえ、幼小中の連携のもとで11年間の人権教育カリキュラムを作成し、総合的・系統的な人権教育の実践化を図る。

3. 特色ある実践事例の内容

◆千代崎中学校区人権教育カリキュラムの作成

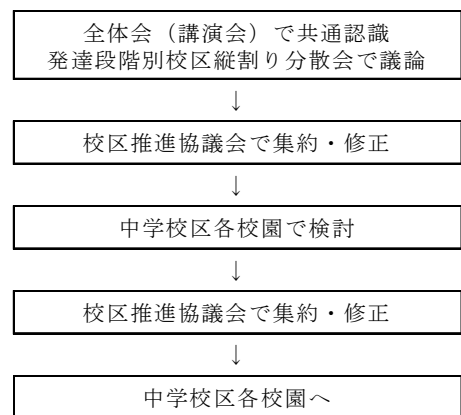
1 取組のねらい

中学校区の各学校において、ここ数年いじめにつながる言動がいくつか発生している。また、障害のある子供や外国につながる子供を低位にみたり、からかったりする差別的言動も皆無ではない。このような実態を踏まえ、千代崎中学校区幼小中人権教育推進協議会を核として、幼小中11年間の人権教育カリキュラムを作成し、総合的・系統的な人権教育の実践化を図るとともに、校区内の小学校や関係機関と連携して、子供が主体となった人権活動に取り組み、自ら進んでいじめや差別をなくしていこうとする子供を育てる実践研究を展開している。

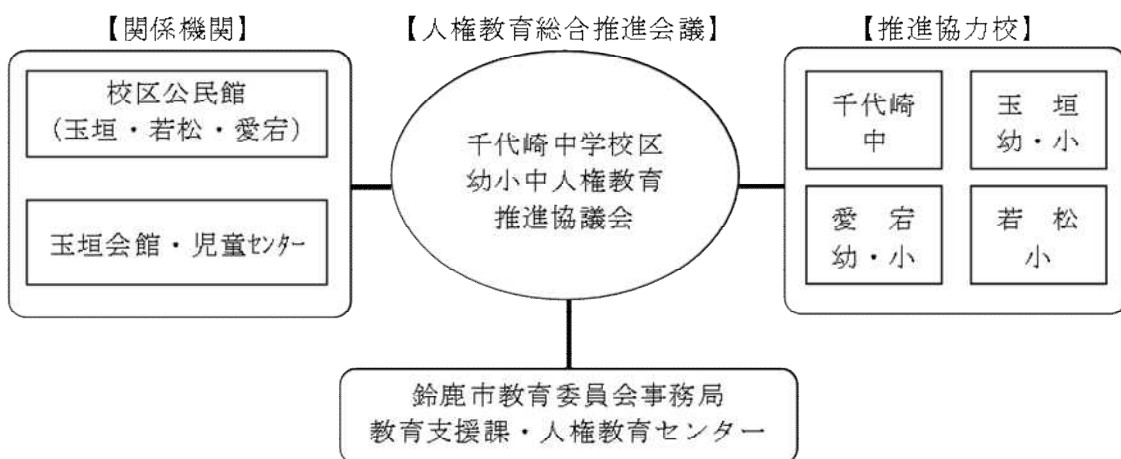
2 取組の内容

大学教員による「総合的・系統的な人権教育カリキュラムづくり」と題した講演会を実施し、中学校区の全教職員が人権教育カリキュラムについての共通認識をもった上で、作成に向けての具体的な議論を始めた。その後、千代崎中学校区人権教育推進協議会が中心となって人権教育カリキュラム案を作成し、集約・修正を繰り返しながらまとめていった。

(作成の流れ)



3 取組の主体や実施体制



◆生徒が主体的に取り組む人権活動の実施

1 取組のねらい

○仲間づくりや人権学習、校区人権フォーラム、子供の人権ネットワーク等の取組を通して、人権感覚あふれる学校づくりに生徒自らが参画することで、具体的な実践力を身につけさせる。

2 取組の内容

(1)人権学習（平成25年度及び26年度の取組から抜粋）

【第1学年】

「部屋の4角」「かけがえのない自分」「様々な『ちがいがい』について考える」「みんなでつくりあげる学級・学校」

意図的に人権の視点で自己を振り返る取組を続けたことにより、学習内容を自分自身の姿に重ねて捉えたり、自分を率直に振り返ったりする生徒が多くなり、自分の考えを活発に交わすことができた。



【第2学年】

「働くってどういうこと?」「いじめについて」

「働くってどういうこと?」の学習の後半では、地域の企業として清掃業で活躍している方との出会い学習を設定し、働くということが「お金のため」だけでなく、「人が人のために働く」ということを実感した生徒も多かった。「いじめについて」の学習を実施し、その成果として、校内人権フォーラムや校区人権フォーラム、子供の人権ネットワーク等において、いじめ問題について活発に意見交流が行われた。



【第3学年】

「統一応募用紙」「ちがいを豊かさに」

第3学年では、主として進路学習に人権の視点を意識した取組を行ってきた。とりわけ、願書や自己推薦書の記入時期に学習を行ったことで、より実感をもって「統一応募用紙」について学ぶことができた。また、「ちがいを豊かさに」の学習では、本校を卒業した外国籍生徒の体験談を読み、その子の将来の夢や高校で人権活動に取り組む姿から、自分たちに何かできることはないかということを考えるきっかけとなった。



(2)中学校区人権フォーラム

平成25年度は、校区人権フォーラムに中学1年生も加わり、2年生と合わせて計19名が参加した。校区フォーラムに先立ち、2回の校内フォーラムを行い、活発に

意見が交わされた。校区フォーラム当日には、誰もがいじめをなくしたいと願いながらも、現実の場面でどうすべきなのか、より踏み込んだ話し合いをしたいとの意見が出された。また、市内の中学生子どもの人権ネットワークによる取組では、3年生と2年生が中心となって人権劇を演じ、亀山市と鈴鹿市の全中学校の生徒会が集まる研修会で発表した。この人権劇をきっかけとして、いじめをなくすための議論が活発に交わされた。さらに、1年生と2年生の全ての生徒が、2学期末にいじめをなくすキャンペーン「100万人の行動宣言」に参加し、いじめをなくすために自分は何をしてくのかを宣言する個人ポスターを作製して送付した。

(3) 子供の人権ネットワーク

鈴鹿市人権教育センターが運営する子供の人権ネットワークには、鈴鹿市内の中学生がいじめや差別をなくすことを目的に集まっている。そこで、子供の人権ネットワークに参加している子供たちが、生徒会活動とも連携しながら、校内でもその活動を広げ、発信し、主体的に活動を進めている。近年、その参加者の大部分が千代崎中学校生徒であり、昨年度は、子供の人権ネットワークの活動として取り組んだ人権劇を千代崎中学校区内で発表した。発表の際には、子供の人権ネットワークに参加していない新たな生徒も加わり、千代崎中学校で体験したこと、考えたこと、学んだことの一つの集大成として取り組み、その思いを校区の保護者・教職員に発信していった。



千代崎中学校区人権フォーラム



子どもの人権ネットワーク
(人権劇)

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

1 1年間の中学校区の人権教育カリキュラムを作成していく上で、子供たちにつけたい力、発達段階に応じた取組の系統性を整理していくために何度も幼小中の教職員が集まり、検討し合う必要性が生まれた。しかし、3つの小学校と1つの中学校、3つの幼稚園の教職員が集うことは、時間的な制約等の課題もあり、容易ではない状況があった。千代崎中学校区では、以前から幼小中の連携を土台にして人権教育に取り組んできた。その土台があったことはもちろん、子供たちの実態や課題、取組状況などを共有するという、連携のために集うことの価値を共有していたからこそ、課題を克服していくことができた。幼小中の連携を大切にする教職員の意識や熱意が人権教育カリキュラムの作成の際にも効果があった。

5. 実践事例の実績、実施による効果

【幼小中の連携】

千代崎中学校区人権教育推進協議会での検討を始め、各校園の人権教育担当者が集まり、人権教育カリキュラムの作成に向けての議論を何度も行ってきた。担当者どうしはもちろん、教職員が校区の子どもたちにつけていきたい力、幼小中の発達段階に応じた系統性等を、より具体的に議論していくことができた。このことが、人権教育カリキュラムの作成だけでなく、校区人権フォーラムや子どもの人権ネットワークの取組の充実にもつながった。

【校区教職員のアンケートより】

- ・中学校区の幼小中の連携がより密になり、園児児童生徒の生活実態把握や生活指導等にも効果的な連携を行うことができた。
- ・校区子供人権フォーラムに至るまでの各学校の取組が充実した。また、中学校区内の学校間連携が密になったことで、分散会を進行する教職員が子供の状況を把握した上で話し合いを進めることができ、内容の濃いものにする事ができた。
- ・子供の人権ネットワークに所属する千代崎中学校の子供たちが玉垣小学校の人権フェスティバルに参加し、校区人権教育カリキュラムがめざす「子供の主体的な活動」の具現化が進んだ。
- ・子供たちが人権について主体的に考え、行動する場や仕組みを具体化することができた。

【生徒のアンケートより】

平成25年度に実施した千代崎中学校の生徒アンケートから、次のような結果が得られた。※「だいたいあてはまる」と「よくあてはまる」を合わせた全学年生徒の回答割合

内容（設問）	H24年	H25年	増減	比較結果からの考察
教育相談（先生は、悩みごとに親身に対応してくれる）	74.3%	79.0%	+4.7%	全体でよりきめ細やかな生徒の実態把握に努めた成果と考える。
学校の対応（先生は、いじめや悪いことをしたときはきちんと指導してくれる）	79.6%	84.0%	+4.4%	全体できめ細かな生徒への指導と支援に努めた成果と考える。
思いやり（人の嫌がることを言ったりしたりせず、思いやりの心で接する）	89.3%	87.6%	-1.7%	生徒間の厳しい関係性が減少したためと考える。
差別意識（障がい者差別や外国人差別などの「差別」のない学校にしたい）	92.7%	92.6%	-0.1%	昨年度とほぼ同数値だが、これを保持したい。
道徳（道徳の授業に真剣に取り組んでいる）	87.8%	87.3%	-0.5%	昨年度とほぼ同数値だが、更により高い意識をつけさせたい。
いじめ（いじめを見たり聞いたりしたら、それがなくなるよう努力する）	81.4%	82.8%	+1.4%	子供が主体的に活動する場や仕組みを具体化できた成果と考える。

発達段階に応じて 育てたい力	【自分】 ～気づく力～ ・自分の良さに気づき、違いを受け入れる力 ・いじめや差別につながる言動を見抜く力	【仲間】 ～気づきから変革する力～ ・仲間の違いや多様さを尊重できる力 ・いじめや差別をなくそうと考える力	【生き方・行動】 ～自ら行動する力～ ・仲間の違いや多様さを「力」に変え、仲間と共に、 いじめや差別をなくすために主体的に行動する力
学年	中学1年	中学2年	中学3年
柱となる活動 (活動の配置)	様々な気づきに出会う 気づきから変革へ 家族・仲間・自分 人権フォーラム・千代崎中学校人権集会		
知識的側面	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の違いを受け入れ、多様な良さに気づく。 人権に関する正しい知識を知る。 生活の中にある、差別や差別につながる言動に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 出会いを通して人々が大切にしてきた思いや願いを知る。 身近な人権課題、歴史上の人権問題について正しい知識と認識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人権課題について正しい知識と認識をもち、人権尊重の意義や重要性を理解する。
	<ul style="list-style-type: none"> 学級づくり(総合) 携帯電話器器講座(総合) 防災学習(総合) 常識?非常識?マナー学習 さまざまな地域の生活の豊かを知る(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> 出会い学習(道徳・総合) 「おじい先生」「鈴争会」 歴史上の人権問題(社会) 学級づくり(学級活動) 性教育(保健体育) 薬物乱用について(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級づくり(学級活動) 仲間づくり(総合) 統一応募用紙(総合) Faithful Elephant(英語)
価値的・態度的側面	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の違いを受け入れ、良さを認める態度。 人権問題を解決しようとしている人々の思いや願いを共感的に受け止める態度。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間のちがいが多様性の良さを認め、尊重する態度。 いじめや差別、人権侵害をなくそうと、自ら考えようとする態度。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かで建設的な生き方を尊重しようとする態度。 いじめや差別、様々な人権侵害について、仲間と共に自ら解決しようとする態度。
	<ul style="list-style-type: none"> いじめについて(道徳) 人権作文(総合) 多文化共生(道徳・社会) 障がい者の人権(道徳) 部活動学習「歴史について」(道徳) 仲間づくり(総合) 「ありがとうカード」(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> 校区フォーラムに向けて(道徳・総合) 人権作文(総合) 職業体験に向けて(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> 人権作文(総合) 平和学習(国語) 全国水泳社(社会) 道徳学習(総合) 高校入試講座(総合)
技能的側面	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を表現し、仲間とつながるための技能。 身近な偏見や差別に気づくための技能。 気づいたことを伝える技能。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な偏見や差別を見極めるための技能。 いじめや差別をなくそうと、なまかにつながるための技能。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会の中にある様々な偏見や差別を見極めるための技能。 仲間と共にいじめや差別をなくそうとするための技能。
	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルスキルトレーニング(道徳)「言葉の四角」「七夕」 集団活動の取組(学校行事・学級活動) 体育祭・文化祭・合唱コンクールの取組(学校行事) 私の主張(総合) 課題学習(数学)自己紹介・他己紹介(英語) 校区人権フォーラム(総合) 千代崎中学校人権集会(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> 社会見学の実践(学校行事) 体育祭・文化祭・合唱コンクールの取組(学校行事) 私の主張(総合) 職業体験の取組(総合) 校区人権フォーラム(総合) 千代崎中学校人権集会(総合) 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行の取組(学校行事) 体育祭・文化祭・合唱コンクールの取組(学校行事) 私の主張(総合) サイコロトーク(学級活動) 千代崎中学校人権集会(総合)

【学校運営協議会】

千代崎中学校の学校運営協議会において、人権教育の取組内容や進捗状況について報告をした。また、今後の取組内容や方向性についても、分析や意見交換を行った。

委員からは、「きちんと笑顔であいさつができる生徒が増えてきた」「体育祭や文化祭など、生徒の活動の様子がすばらしく、温かい雰囲気を感じられる」等の生徒の変容を、人権教育の取組による成果だとする評価があった。そして、「スマートフォン等の使い方やマナーを早い段階から指導する必要がある」という新たな課題も明らかになった。

また、不登校の生徒等の教育的に不利な環境のもとにある生徒たちの具体的な状況を共有することができ、今後とも幼小中の連携を深めていくこと、地域との連携・協働を更に進めていく必要性を確認し合うことができた。

【今後に向けて】

今後、幼小中連携のもとで作成した千代崎中学校区人権教育カリキュラムに基づいた取組を基本としながら、生徒たちが主体的に取り組む人権活動を更に充実させていきたい。そして、生徒たちの活動の様子等、千代崎中学校の人権教育の取組を学校運営協議会や地域住民へと発信していきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

鈴鹿市立千代崎中学校

人権教育は、児童生徒の発達における各段階で、人権教育を通じて育てたい資質の三側面のいずれもが適切に指導されることが必要であるが、本実践では、そのことを踏まえ、幼小中11年間の人権教育カリキュラムを作成し、総合的・系統的な人権教育の実践化を図っているところに特徴がある。

中学校区内のすべての幼小中の教職員が集い、カリキュラム作成の最初の段階で共通認識をもったこと、子供たちの実態や課題、取組状況などを共有したことなど、連携のために集うことの価値を共有し、幼小中の連携を大切にしている教職員の意識や熱意が、様々な課題を克服させている。人権感覚あふれる学校づくりに生徒自らが参画し、具体的な実践力を身に付けていることや、生徒が主体となって様々な人権活動に取り組み、自ら進んでいじめや差別をなくそうとしていることなど実践的な研究である。